

案件概要表(草の根協力支援型)

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	インドネシア国
2. 案件名	メッサ島 R0 膜ろ過装置の維持管理にかかる能力向上支援事業
3. 事業の背景と必要性	インドネシアでは、ジャワ島等の地域に比べて地方部の開発が遅れており、生活の質を向上させるための生活基盤の整備が課題となっている。居住環境の地域間格差を是正する一環として、水供給に関する支援が推進されているものの、特に離島部において、安全で廉価な生活用水の安定的な供給が求められている。 西マンガライ県の水道未普及地の一つであるメッサ島では、生活用水（洗濯すすぎ水など）は県都ラブアンバジョーから船で運ばれた真水を購入しており、同島の一世帯平均月収 2 万円のところで、月当たりの生活用水費が平均 2,800 円と収入の約 14%を占めるに至っており、県都ラブアンバジョー（水道普及率 67%）における水道料金（m³ 当たり 100 円以下）の 10 倍となっている。水道整備区域にすら入っていないメッサ島のような小島嶼において、こうした上水道分野における地域間格差是正の必要性は高い。 本件草の根プロジェクトにおいては、同島の諸条件（搬入路の狭さや橋梁の脆弱さ等から大型で重量物の淡水化装置を搬入できない）に合致する現地組立て型の小型 R0 膜ろ過装置を持続的に稼働させるため、維持管理技術人材の育成及び受益者負担の原則に則る水道運営体制の確立に向けた支援を目指している。
4. プロジェクト目標	メッサ島民が十分な真水を持続的に得られるようになる。
5. 対象地域	インドネシア国西マンガライ県パセルプティー村（通称「メッサ島」）
6. 受益者層 （ターゲットグループ）	1) 直接受益者：メッサ島水利管理組合を構成する維持管理担当組合員 20 名及び料金徴収対象世帯（最大 400 世帯） 2) 間接受益者：メッサ島全体島民（約 2,300 名）
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<アウトプット> 4 つの R0 膜ろ過装置が問題なく稼働する。 - 水利組合が R0 膜ろ過装置の維持管理と真水の供給を担えるようになる。 - R0 膜ろ過装置による真水の供給事業の採算があうような実施体制が確立される。 - 島民により、R0 膜ろ過装置による真水が、真水の無駄遣いや料金未払い等の問題がなく利用される。 <活動> 1-1 R0 膜ろ過装置設置の状況を把握する。 1-2 R0 膜ろ過装置設置の事前調整をする。 1-3 R0 膜ろ過装置設置にあたっての環境を整備する。 1-4 R0 膜ろ過装置を改修・設置する。 1-5 改修・設置した R0 膜ろ過装置の稼働状況をモニタリングする。 1-6 R0 膜ろ過装置改修・設置・稼働の一連の業務を評価する。 2-1 水利組合員選定にあたっての条件を定義すると共に、水利組合規約（案）を策定する。

	2-2 水利組合員を選定する。 2-3 水利組合員による自力維持管理のために必要なマテリアルを作成（改定）する。 2-4 水利組合員に対する研修（技術移転）を実施する。 2-5 水利組合員による自力維持管理業務に対するモニタリング（OJTを含む）を実施する。 2-6 水利組合員による自力維持管理業務の技術評価をする。 3-1 真水供給の事業化にあたっての事前調査を実施する。 3-2 真水供給の事業化（案）を作成し、関係者（島民、役場、県等）に周知する。 3-3 真水造水の経費軽減案を策定し実施する。 3-4 真水供給の事業化（案）に対する関係者（島民、役場、県等）からの合意を得る。 3-5 真水供給事業の実施体制を整備する。 3-6 真水供給事業を実施すると共に、同事業のモニタリングを実施する。 3-7 真水供給事業を評価する。 4-1 島民の真水需要に対する調査を実施する。 4-2 島民の真水需要調査結果を島民に共有し、徴収可能な世帯を特定すると共に、徴収台帳を作成する。 4-3 真水事業に関する理解を得るための戸別訪問を実施する。 4-4 真水利用に関する啓発活動のためのマテリアルを作成する。 4-5 真水利用に関する啓発活動を実施する。 4-6 真水供給事業・利用に関する島民の満足度調査を実施する。 4-7 真水供給事業・利用に関する、関係者への共有ワークショップを実施する。
8. 実施期間	2023 年 6 月～2025 年 5 月（計 24 か月）
9. 事業費概算額	9,999 千円
10. 現地カウンターパート	西マンガライ県パセルプティー村（通称「メッサ島」）村役場
Ⅱ. 実施団体の概要	
1. 団体名	公立大学法人富山県立大学
2. 活動内容	研究、高等教育、人材育成、学術文化の向上、地域及び産業の振興、保健及び医療の充実、社会貢献